

神津島、船中一泊の旅(帆船日本丸友の会 船の旅)

T2 廣原 健

昨年に続いて船の旅に参加したレポートです。

今回のコースは、東海汽船(さるびあ丸)で東京竹芝桟橋～神津島～神新汽船(フェリーあぜりあ)で伊豆下田まで、ひたすら船に乗る旅だった。真鍮磨きでお会いするメンバー、鳥海さんはじめご夫婦連れ2組を入れて8名の旅。

11月14日(木)21:30 東海汽船待合室集合。22:00 出航の大島・利島・新島・式根島を經由



して 11/15(金)10:00 神津島着のさるびあ丸。各自乗船券を購入、手続きをしてそれぞれの船室落ち着いた。



海は穏やかで揺れもなく、いつ出航したのか分からないほど。出航時から24時まで営業の6階レストランで軽い飲み会、さらに24:30から無料開放の席で消灯まで飲み直し。船内の自販機でのアルコール飲料の販売は、ナント免許証を読み込ませないと買えない。未成年者に酒を購入させない仕掛けだという。

25:30 艦内消灯のアナウンスに皆ねぐらに戻る。特1等の人1等の人もいたが、私は3階の2等座席におさまった。飛行機のビジネス程度のリクライニングシートだが、リクライニングとフットレストの具合がいま一つ。5～6時間寝るだけなので我慢したが、2等個室のざこ寝の方が良かったかな？！



2等椅子席

朝食のレストランは6階、特1等・1等船室は5階、粗末なスリッパで船内を歩き回ったせいか、エコノミー症候群だったのか下船の時は、足の裏が酷く痛み右足がツル感じ、歩行が覚束ない状態だった。

竹芝桟橋を出て6時間後、大島岡田港沖で沖待ちし6:30大島着。利島・新島・式根島を経て10:00定刻から少し遅れて神津島前浜港に到着。

大島と利島の間は潮目が悪く少し揺れたが概ね穏やかな航海だった。前浜ターミナル周辺で時間をつぶし、“よっちやれ食堂”で、昼食に金目鯛煮付け定食を食べて満腹になった。

下田に向かう新神汽船はこの日は島の真裏の多幸湾・三浦漁港発。バスで天上山(557m)を回り、三浦漁港の客船ターミナルに移動した。



多幸湾(神津島)

40年ほど前にヨットで三浦港に行ったことがあるが、港の景色はすっかり変わっていて、多幸湾の丸島と天上山から雪崩れ

落ちる雄大な白砂の崖が微かな記憶に残っている程度。

三浦港 14:00 発下田行きフェリーあぜりあに乗り込んで最後の行程。短い乗船だが、鳥海さんがキープしてくれた1等船



「フェリーあぜりあ」乗船前

室で一寸だけ懇親会。次回は瀬戸内海をクルーズするのが良いねと衆議一決。

私は、歌詞カードを配って「海、そのあい」

を皆さんと歌ってもらった。来年5月5日の第29回定期演奏会のPRも抜かりなかった。

16:30 下田港到着。下船後、伊豆急下田駅まで徒歩20分ほど。ペリー艦隊記念碑など観光SPOTにはわき目もふらず、足を引きずりながらやっと着いて行って、私はここで脱落、金目鯛の握り折詰を買って帰路に着いた。

他の皆さんは、駅近の露天風呂付きホテルに泊まって、鳥海さんお馴染みの地元で人気の居酒屋「賀楽太」で懇親会。金目鯛の料理に舌鼓を打って、たいそう盛り上がったそうだが、自分は参加出来ず残念！！

船の旅・世話人の石川さんから、次回は広島辺り集合のプランを考えますのでお誘い頂いた。(廣原 健 記)

『写真は、友の会会報257より掲載』